

# 筑後市子ども登下校 見守りの基本

日頃は、朝夕の通学路での見守り活動や、子どもの交通安全にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

このハンドブックは、子どもの登下校中の見守り活動に従事していただいている方々に向け、基本的な知識や安全な横断方法などを掲載したものです。地域における見守り活動にご活用ください。

見守り活動は子どもの安全を守る大切な活動です。毎日のふれあいを通じて、子ども自身が安全な行動をとれるよう、繰り返しの指導をお願いいたします。

## 目次

- 1 見守り活動の基本的な心構え
- 2 見守り活動時の服装、持ち物
- 3 見守り活動の注意事項
- 4 子どもの特性に係る注意事項
- 5 交通事故発生時に備えて
- 6 犯罪、不審な行動を目撃したら
- 7 持続可能な活動に向けて

## 作成者

筑後市安全で安心できるまちづくり推進協議会

筑後警察署 筑後市交通安全協会

筑後市防犯協会 筑後市

作成日 令和6年10月30日

# 1. 見守り活動の基本的な心構え

## 1 自分自身のケガに注意

横断する子どもが交通事故に遭わないように注意するだけでなく、自分自身も交通事故に遭わないよう十分注意し、くれぐれも自身の身体を盾に車を止めないようにしましょう。

## 2 子どもの飛び出しを防ぐ

子どもが飛び出さないようにしてください。

そして、「最も安全に横断させること」に重点をおいて実施しましょう。

横断旗を使って走行中の車やバイクを止めることはやめましょう。

## 3 お互いの立場を理解する

子どももドライバーも同じ道路を通行する者として、お互いの立場を理解しましょう。

## 4 中途半端は禁物

慌てたり、ためらったり、中途半端な動きが最も危険です。安全を第一に考えて行動しましょう。

**見守り中に何かありましたら(事件、事故等)、その時の状況に応じて適切な連絡をお願いします**

筑後警察署	救急
110番	119番

※「5. 交通事故発生時に備えて」「6. 犯罪、不審な行動を目撃したら」も参考にしてください。

通学路における見守り活動は、子どもに正しい通行方法を身につけさせる「生きた交通安全教育の場」です。

## 2. 見守り活動時の服装、持ち物

見守り活動時の持ち物の例は次のとおりです。  
見守り活動中であることが一目で分かることが、活動のしやすさや、犯罪を防ぐ効果を得られるほか、子どもの安心感にもつながります。

### ● 見守り活動時の持ち物やあると便利なものの例

- 1 ベスト・ジャンパー  
蛍光色など目立つ色とし、反射材が付いているとよいでしょう。
- 2 帽子  
蛍光色など目立つ色とするとよいでしょう。
- 3 タスキ・腕章  
蛍光色など目立つ色とするとよいでしょう。
- 4 名札  
見守り活動者であることを示すものを携行するとよいでしょう。
- 5 横断旗  
横断歩道や交差点を見守る際にあるとよいでしょう。

### ● そのほかにも

- ・ 目立つ服装(明るい色)がよいでしょう
- ・ 動きやすい服装がよいでしょう  
(サンダルやヒールを避ける、スニーカーをはく等)
- ・ 両手が空く状態を心がけましょう  
(手荷物がある場合は、リュックタイプを使用する等)
- ・ 乳幼児を現場に連れて行くことは避けましょう
- ・ 雨の日は身動きがとりやすいように、できれば雨衣(レインコート)を着用しましょう。もしくは、周囲が確認しやすい透明の傘や、明るい色の傘を使用するとよいでしょう

## 3. 見守り活動の注意事項

- 交差点などに立って見守るときには、自動車や自転車の死角とならない場所に立つようにしましょう。
- 一般の方は自動車を強制的に停止させる権限はありませんので、過剰に自動車を停止させるなどの交通整理はやめましょう。
- 協力してくれたドライバーには、一礼をするなど配慮しましょう。

### ● 重点的に見守りを行ったほうがいい場所

交通安全の観点では、特に以下のような場所に注意が必要です。

- ・ 交通量の多い道路
- ・ 路側帯が狭い道路
- ・ 交通事故が頻繁に発生している道路
- ・ 歩車道の区別がない道路
- ・ 車両の走行スピードが速い道路

※防犯の観点では、人通りが少なく、子どもが1人になってしまう場所も注意してください

### 見守り活動中の熱中症に注意しましょう！

気温の高い時期に見守り活動を行うときは、自身の体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

#### ● 熱中症を防ぐために

- ・ 日陰や帽子を利用したり、こまめな休憩を取りましょう
- ・ 通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用しましょう
- ・ 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やしましょう
- ・ のどの渇きを感じなくても、こまめに水分を補給しましょう

## 4. 子どもの特性に係る注意事項

- 子ども(特に低学年の子ども)は、大人より視野が狭く、視点も低いため、大人と同じように危険を感じていないことがあります。
- 判断を大人に依存する傾向があります。
- 子どもによって、危険予測能力や危険回避能力に差があります。

子どもの行動・特性	注意事項(チェックポイント)
飛び出し	公園などからの急な飛び出しに注意が必要です。 自転車・歩行者との出会い頭で衝突の危険があります。
急に走る	青信号に変わったときや踏切の遮断機が上がった途端に走り出す子どもに注意が必要です。
広がって歩く	自転車などとの衝突の危険が高まります。 また、他の歩行者や自転車の迷惑となるので注意が必要です。

## 5. 交通事故発生時に備えて

普段から交通事故が発生したときのイメージトレーニングをしておきましょう。大人が慌てていると、子どもも動揺してしまうので、冷静に行動しましょう。

### ● 交通事故を目撃したら…

#### 1 負傷者の救護

負傷者が居る場合は、手当が最優先です。

周囲の人に協力を求め、手当をしながら落ち着いて救急車(119番)を呼んでください。

#### 2 道路上の危険防止

二次被害を防止するため、車は路肩などの安全な場所へ誘導するようにしてください。

#### 3 警察への通報

当事者が通報できないような状況であれば、代わりに警察(110番)に連絡してください。

### ● 救急や警察への通報例

#### 1 何が起こったか？

「車と自転車の交通事故が発生」

#### 2 どこで？

「場所は〇〇通りの〇〇交差点です。角に〇〇コンビニがあります。」

#### 3 いつ？

「5分くらい前」

#### 4 状況は？

「自転車に乗っていた女性が足から出血」「意識はあって話ができます。」

#### 5 通報者

「私は〇〇と言います。電話番号は…です。」

## 6. 犯罪、不審な行動を目撃したら

活動中に、危険な場面や不審な行動を目撃したら、警察へ連絡・相談しましょう。

事件性、緊急性が高いと判断した場合は、警察へ連絡するようにしましょう。

### ● 通報前には深呼吸をしましょう。

緊急事態に遭遇すると、どうしても焦ってしまいます。身の安全を確保した上で、まずは深呼吸してから対応しましょう。

### ● 適切な情報伝達を心がけましょう。

次のような情報を聞かれることがあります。正確に伝えましょう。

#### 1 何があったのですか

事件ですか？事故ですか？あなたは当事者ですか？目撃者ですか？

#### 2 いつのことですか

〇時〇分頃の発生ですか？通報する何分くらい前の出来事ですか？

#### 3 どこでありましたか

場所はどこですか？地番も教えてください。

※地番が不明の時は、近くの建物の名前などを教えてください。

近くに信号機があれば、信号機下に設置の表示板に記載の交差点名を読み上げてください。

#### 4 犯人の人相・着衣・年齢・逃走方向は

犯人が車を使っていれば、ナンバーは？凶器は持っていませんか？

#### 5 被害状況、被害品、負傷状況は

#### 6 あなたの住所・氏名・電話番号は

※「5. 交通事故発生時に備えて」も参考にしてください。

見守り活動はあくまでもボランティア活動であり、**活動者の安全が第一**です。活動をされる方は、何か起こったら自分で対処しようとせず、すぐに110番、119番へ連絡するようにしてください。

## 7. 持続可能な活動に向けて

### ● 無理をしない、無理をさせない活動を心がけましょう

- ・ 活動は、日頃の行動範囲を中心に考えましょう
- ・ 時間帯や頻度、方法はライフスタイルに合わせて無理なく活動しましょう。
- ・ 一人一人が協力し合い、楽しく活動しましょう。
- ・ 活動者同士だけでなく、保護者、学校、筑後市、警察、地域住民等が思いやりながら、楽しみながら活動することが大切です。

### ● コミュニケーションを大切にしましょう

- ・ まずは挨拶を大切にしましょう。「お疲れ様」「ありがとう」などの言葉をかけ合い、互いに気持ちよく活動しましょう。
- ・ 日頃から顔を合わせる機会をつくりましょう。見守り活動者同士の絆は、地域コミュニティの絆にもつながります。

### ● いろいろな人を巻き込みましょう

- ・ 見守り活動者の募集方法を工夫し、様々な世代を巻き込みましょう。

### ● 見守り活動者のモチベーションを向上させましょう

- ・ 見守り活動の様子などを小学校や地域の人に知ってもらうことは、活動のしやすさや、活動者のモチベーションアップにつながります。
- ・ 活動者にとって子どもや地域の人からの「ありがとう」の一言はとても励みになります。

見守り活動は無理なく行いましょう。

小さな取組の積み重ねによって、地域全体で子どもたちの安全を守る環境が生まれるとともに、地域コミュニティの活性化も期待できます。